

漢方薬の血液凝固系及び血小板凝集能に対する影響

○遠藤 真理¹⁾、花輪 壽彦^{1,2)}

北里研究所・東洋医学総合研究所・臨床研究部¹⁾、北里大学大学院・医療系研究科²⁾

【目的】 芎帰調血飲は主に産後の不調を治す処方で、貧血を補い、子宮収縮不全による悪露瘀血や骨盤内鬱血による瘀血の状態を治したり、気をめぐらし、胃腸を強化し、産後の肥立ちを良くするのに適している。産後だけでなく、月経不順、不正出血、めまい等にも応用される。しかし、このような微小循環を良くする漢方薬の薬理作用についての検討は乏しい。本研究では、芎帰調血飲及び臨床例で見られた黄耆の加味方さらに黄耆単味、抗瘀血剤として知られる冠心Ⅱ号方についての抗血栓効果を *in vivo* での凝固系及び血小板凝集能により検討した。

【方法】 ddY マウスに24時間の間隔で3回漢方薬を投与し、その1時間後に採血を行い、凝固系及び血小板凝集能について検討した。出血時間の測定：しっぽを切創してから出血が停止するまでの時間を測定した。凝固系検査[トロンボテスト(TBT)]：内因系凝固系を活性化する血小板第3因子(リン脂質)、感度を下げたウシ脳トロンボプラスチン、BaSO₄吸着処理したウシ血漿とカルシウムを含む試薬に、血漿を添加して一段法にて凝固時間を測定した。カルシウム添加組織トロンボプラスチン試薬を添加して、生物学的活性をフィブリン塊の析出を終点として凝固時間を測定した。血小板凝集能の検討：血小板多血漿を10 μ MのADPにて刺激し、620nmでの吸光度を測定した。血小板凝集率は、ADP刺激前の血小板多血漿の吸光度を0%、血小板乏血漿の吸光度を100%凝集として求めた。

【結果および考察】 抗凝固薬であるワーファリン、抗血小板薬であるチクロピジン群ではコントロール群に比べ有為に出血時間を延長させた。芎帰調血飲を投与した結果、出血時間に有意の差は示さなかった。黄耆及び冠心Ⅱ号方では出血時間の延長傾向を示した。芎帰調血飲加黄耆群では、コントロール群に対して、出血時間を延長させた。トロンボテストでは、ワーファリン群は有為に凝固時間を延長させたが、漢方薬投与群では有為差は見られなかった。以上のことから本漢方薬は内因系凝固因子には影響しないことが示唆された。血小板凝集能はチクロピジン、冠心Ⅱ号方投与群では抑制していたが、ワーファリン、黄耆、芎帰調血飲及び芎帰調血飲加黄耆投与群では有意差を示さなかったことからワーファリンやチクロピジンとは異なる作用機序で抗血栓効果をもつ薬として使用出来る可能性が考えられた。